

市内の渋滞回避で移動時間の大幅短縮！

～双葉スマートインターチェンジ～

路線名	中央自動車道西宮線
所在地	山梨県甲斐市龍地

甲斐市は甲府盆地の中西部に位置し、地理的な条件や日常の生活圏が隣接するため古くから様々な面で交流が盛んだった旧敷島町、旧双葉町、旧竜王町の3町の合併により、平成16年9月1日に誕生しました。人口は約7.4万人で山梨県下第2位の都市です¹。

甲斐市の就労人口のうち約3割²にあたる1.1万人程度が隣接する甲府市まで通勤しています。また、山梨県の一人当たり自動車保有台数は797台/千人で全国第3位であり³自動車交通への依存度が高いと考えられます。そのため、一般国道20号や県道甲府葦崎線は朝夕を中心に慢性的な渋滞が発生しています。特に一般国道20号 竜王立体や県道甲府葦崎線 武田交差点では渋滞損失時間が各々約400千人時間/年・km（武田交差点は県内ワースト9位・竜王立体は11位）⁴となり、山梨県における交通円滑化対策優先候補箇所ともなっています。

このような状況に対し、双葉スマートICの設置で一般道よりも時間短縮が可能な新たなルートが生まれました。社会実験のアンケート結果によるとスマートIC利用の9割以上が甲府昭和ICなどからの転換⁵とみられ、中央道を東京方面へご利用のお客様が、双葉スマートICを利用して交通混雑ポイントを回避することで、中央道へのアクセスに約11分⁶の時間短縮を得ています。また、社会実験期間中には、双葉スマートICから甲府昭和IC、甲府南IC、一宮御坂ICへの短区間の利用も多く見られ⁵、甲府市内への通勤通学に利用されています。

スマートICの利用台数は約550台/日(H18.8)で社会実験期間中増加してきており、今後も利用台数の増加とともに効果の拡大が期待されます。

位置図～渋滞箇所及び時間短縮効果例～



出典

- 1 甲斐市ホームページ (H18.8) 2 第1次甲斐市総合計画 (H18.3)
3 第一回 山梨県道路交通円滑化・安全委員会 資料 (H17.11) 4 第二回 山梨県道路交通円滑化・安全委員会 資料 (H17.12)
5 双葉スマートIC 社会実験協議会 アンケート調査 6 NEXCO 実測調査 (H18.9 15時)